

A portrait of a middle-aged man with a goatee, wearing a grey suit, white shirt, and blue tie. He is looking slightly to the right with a gentle smile. The background is a soft-focus indoor setting with light coming from a window on the left.

Dean's Message

学部長挨拶

新潟大学歯学部

オープンキャンパス開催にあたって

高校生，保護者の皆さま，本日は新潟大学歯学部オープンキャンパスにお越しいただきありがとうございます。

新潟大学歯学部は，1965年に日本で3番目の国立大学として誕生しました。当時の日本は，「虫歯洪水の時代」として知られており，歯科医師の数も少ない時代であったことから，国をあげて歯科医師の養成が進められました。虫歯の治療と小児の頃からの予防歯科が進むことで虫歯の減少とともに迎えたのが歯周病の時代です。高齢者が歯を失う原因の第1位は歯周病です。これを受けて1989年に日本歯科医師会が8020という運動を開始しました。これは80歳になっても20本の歯を残そうというものです。歯周病治療や国民の歯に対する関心が高まり，現在では80歳の半数以上が20本の歯を残すという時代になりました。そして今，私たちが迎えているのが超高齢社会です。高齢化率30%という長寿大国の中で，歯の重要性は，食べる，話すといった日常生活の中にあることから，歯科医療の役割が単に歯を残すだけでなく，咀嚼，嚥下といった口腔機能の健康維持の担い手となるという方向にシフトチェンジしつつあります。

その中で新潟大学は常に時代とともに全国の歯学部をリードしてきました。その内容は、歯学部教育とその成果に表れています。歯科医師養成の歯学科では、高い歯科医師国家試験の合格率に加えて、修業年限（6年間）内での合格率は全国トップです。また、歯科衛生士と社会福祉士の養成学科である口腔生命福祉学科では、歯科衛生士国家試験の合格率は勿論のこと、近年の社会福祉士国家試験の合格率は100%近くに達しています。そしてこれらを支えているのが、新潟大学歯学部が誇るの歯学教育です。そこには、与えられた課題を自ら考えて、調べて、議論して回答を導くこと、そして自らの振り返りで学習評価を行うといアクティブラーニングが含まれており、これを全国でもいち早く取り入れたのが新潟大学です。さらに、歯学科では自らが主治医となって患者さんの検査、診断、治療にあたる診療参加型臨床実習を行っており、文部科学省からも高い評価を得て、全国歯学部・歯科大学の卒前教育のモデル校となっています。

もうひとつ、新潟大学歯学部が誇るのが国際交流です。今では全世界に50を超える協定校をもち、短期留学制度を用いた海外留学の機会があることや、留学生を招いての交流が図れるのが何よりの楽しみです。現在新潟大学歯学部には多くの外国人教員、留学生がアジアをはじめとして世界から集まっています。グローバル化や多様性が求められる時代にあって、身をもって国際社会を感じることができる機会があるのも魅力です。

新潟大学の唯一の弱点は.... 冬の気候かも知れませんが、それもまた入学してから楽しみ？。本日は半日の短い時間ではありますがオープンキャンパスを楽しんでいって下さい。

新潟大学歯学部長 井上 誠